

「第4回がん研究所政策課題対応推進事業セミナー」を開催

2011年3月24日

3月24日(木)にがん研究所棟4階 会議室において、講師に新潟薬科大学応用生命科学部 石黒 正路先生を迎え、「膜蛋白質受容体の機能的構造モデルとリガンドデザイン」と題して、「第4回がん研究所政策課題対応推進事業セミナー」を開催しました。

講師の石黒先生は、サントリー生物医学研究所・生物有機科学研究所時代に蛋白質の立体構造とドラッグデザイン・化学合成などを駆使して、「抗生剤ファロム」の創成に成功されました。ファロムは標的分子の結晶構造に基づくドラッグデザインによって医薬品を創ったが世界初の例で、石黒先生は創薬研究分野における第1人者でおられます。

セミナーでは創薬科学者としての視点や教育者としての立場で見聞されたことを基に、現在、大学に求められているテニュアトラック制度、学術交流、若手育成等のあり方について、国内外の研究機関の情勢を踏まえ、ご講演頂きました。ライブ・イノベーションにおける政策課題の1つ「日本発の革新的な医薬品創成」に向けて勇気づけられるお話でした。

セミナーには、田中理事、長野理事をはじめ所内外の研究者並びに大学院生ら約20名が参加し、活発な質疑応答や意見交換が行われました。



金沢大学重点戦略経費
政策課題対応型研究推進セミナー

膜蛋白質受容体の機能的構造 モデルとリガンドデザイン

講演者

新潟薬科大学応用生命科学部・教授

石黒 正路 先生

日時：平成23年3月24日（木） 16：30～17：30

場所：金沢大学がん研究所 4F 会議室

石黒先生はサントリー生物医学研究所・生物有機科学研究所時代に蛋白質の立体構造とドラッグデザイン・化学合成などを駆使して、抗生剤ファロムの創成に成功されました。ファロムは光学活性医薬品として初めての全合成医薬であり、いくつかの感染症に対する著明な薬効を示す画期的な医薬となりました。ファロム創成により石黒先生は日本薬学会創薬科学賞を受賞されました。その後、G蛋白質共役型受容体（GPCR）や匂い受容体などについて、受容体-リガンド相互作用のコンピュータシミュレーション、リガンド化合物デザインと化学合成を基盤として、生理活性分子とその受容体の構造からみた生物多様性の理解や創薬につながる研究を発展されています。ご自身の成功体験も交えてお話し頂くことで、ライフ・イノベーションの1つ「日本発の革新的な医薬品創成」に向けて勇気づけられることと思います。

連絡先：がん研究所研究協力係 内線(6702)